

2022年 2月 4日 (金)

みらいとびら
未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第149号

きんせん
「琴線」

1学年 支援部 O

2月といえば、「節分」ですね。「節分」は、本当は年に4回あります。

季節の移り変わるとき、すなわち立春、立夏、立秋、立冬の前日の事です。

八十八夜、二百十日などは、立春を起点として数えます。

「鬼」の語源は「隠(おん)」で、姿が見えないという事です。

隠れていて見えないものを人は恐れ、怪物にしたてていったのだと思います。

鬼を追ひ払う儀式は鬼やらい、追儼(ついな)と呼ばれ、今は節分にしますが、昔は大晦日の行事でした。

日本の行事や昔からの言葉が好きな私ですが、「琴線に触れる」という表現があります。

私は小さいころから絵を描くことが好きでした。幼稚園が終わると祖母の家へ行くことが日課で、祖母も孫の私が絵を描くことが大好きなことを知っていたので、常に落書き帳を欠かさず用意してくれていました。

祖母の家の壁には大きな黒板があり、毎日チョークで絵を描き、ついでにコンクリートの床にも絵を描き、それにも飽き足らず家の前にも絵を描き続けていました。

今思えば迷惑な話ですが、祖母は私の描いた絵にいつも「100点まん点！」と採点し、そんな祖母のおおらかさがあってか、絵を描くことは楽しいことと思いつけることができたのかもしれない。

趣味が高じて美術の教師をしています。絵を描くことと同じくらい好きなことが「音楽」です。

特に弦楽器が好きで、バイオリン、チェロ、ハープシコードの音色を聴くと、心の底から涙があふれるくらい気持ちの良い感覚になります。

私の場合で例えるのならば、赤ちゃんの屈託のない笑顔やよちよちと歩く姿、素晴らしい生演奏を聴いたときの瞬間、満開の桜が散るときの美しい景色など、心の奥底で魂が震える幸せな感覚でしょうか。

実は、私たちの誰の心の奥にも「琴線」と言う楽器がひそやかに存在しているのです。

感動することで、心の奥底の「琴線」は共鳴し、美しい音色を奏でるのです。

明治の頃は、ピアノを洋琴、オルガンを風琴、ハープを豎琴とよんでいました。

中国では、ピアノのことを鋼琴、バイオリンのことを小提琴というそうです。

英語では、「touch the chord」

感動する心は世界共通です。

心と心が通じ合える人は、お互いの琴線にふれることができ、協和音を奏で合うことで言葉がなくても心地が良いのかもしれない。

感動することが多い人は、心にある色々な種類の琴線を持っていて、たくさん奏でているのかもしれない。

時には不協和音と感じる出来事にであうこともあるかもしれません。

そんな時でも、心の琴線が錆びないよう、美しい音色で奏でられるような人間でありたいと思う今日この頃です。

うちの先生♪ I・Y先生

<レポーターはNです>

今年度、本校に赴任された1年生のI先生に、お話を聞かせてもらいました♪

◆高特のジャニーズことI先生、専門を教えてください。

保健体育で、専門種目はサッカーです。サッカーは小学校4年生からやっています。色々なポジションを経験しましたが、中でもディフェンスに入ることが多かったです。(思い出に残る試合はありますか?) 高校2年生の時、全国優勝した時の決勝戦ですね。その時は先輩の代のチームだったので自分はスタンドから応援をしていましたが、自分のチームが日本一になったことにとっても感動しました。忘れられない試合です。

◆きっと毎日厳しい練習をされていたと思うのですが、そんなサッカー部には、どんなルールがありましたか?

色々ありましたが、“先輩に会ったら、大きい声で、しっかり立ち止まり顔を見て挨拶をする”というルールがありました。高特のみなさんが挨拶をしてくれるたび、その頃の事を思い出します。みなさんの中にも、出会った時に立ち止まり、顔を見て挨拶をしてくれる人がいますが、そのような挨拶をしてもらうととてもうれしいですし、元気をもらえます。誰に対してもそのような挨拶が出来るのは、大きな武器だと思います。

◆大学生の時は、実家を出て1人暮らしをされていたとお聞きしました。1人暮らしをされて感じたことは。

生活するにはお金がかかるのだと、改めて感じました。電気・ガス・水道などの光熱費や、食費や家賃。どれくらいお金がかかるかを気にしながら、節約を心がけて生活していました。夜になるとスーパーの食材が割引になるので、それをねらって買い物に行っていましたね。(そんなI先生、実家にいた時から、自分のお弁当は自分で作っていたそうです♪) お弁当には毎日卵焼きを入れていましたが、日によって甘い卵焼きにしたり、海苔入りにしてみたり、飽きないために工夫していました。(色々な卵焼きのレシピ、ぜひI先生に聞いてみてね♪)

◆高特のみなさんに身につけてほしいということがあれば。

打たれ負けないことって、大切だと思います。思い通りにいかなかったり、納得のいかないことで怒られたりすることもあると思いますが、その時に「自分はダメ」と思って落ち込むのではなく、「そこから何かを学んではい上がる」力をつけることは、きっと自分のためになると思っています。(サッカー部でのたくさんの経験が、今のI先生を作っているのですね!)